

【高等学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立伊万里実業高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「唯一無二の誇り高き学校づくり」の課題については、両キャンパスともに、具体的な取組に着手し始めたところである。継続した取組になるよう今後の計画を熟考する必要がある。 ・コロナ禍の中、学校祭や芸術鑑賞会等の行事を合同で行うことができた。一方で、校外活動にはその影響が残っており、オンライン実施も含めて、より効果的な教育活動を創出していく必要がある。
2 学校教育目標	心身ともに健康で逞しく、「至誠」と「礼節」を重んじ、専門的知識・技術を生かし社会に貢献し愛される人材を育成する。
3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 心身ともに健康な生徒と安全安心な学校づくり ② 学習意欲を高め、確かな学力習得(修得)と進路実現を図る ③ Society5.0や6次産業化などの次世代を見据え、地域に貢献できる人材の育成を図る

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果
●学力の向上	○専門的知識・技術の向上	○アグリマイスター取得生徒5名以上(農林キャンパス) ○専門に関する資格取得数4個以上の生徒80%以上	・実習や実践授業、実験等を通して、目的や目標を明確に示し、できたことをほめることで、学習意欲を向上させる ・課題研究を通して探究活動を充実する	B	・アグリマイスター取得生徒は2名にとどまった。農業クラブ活動の活性化のためにも、マイスターの取得を目標とさせたい。 ・商業キャンパス生徒で、専門に関する資格取得数4個以上の生徒は、26%であった(全商6種目3名、5種目4名、4種目13名)。ただし、取得難易な資格として、情報処理技術者試験(ITパスポート試験2名、基本情報1名、応用情報1名)、全経簿記1級に5名、全商財務諸表分析検定試験に9名が合格している。
	○基礎学力の向上	○朝の小テストの平均正答率7割以上 ○「小テストや朝の学習が基礎学力向上につながった」と回答した生徒が60%以上	・進路実現に向けた取り組みであることを理解させることで、主体的に学習する意識付けを行う ・学校全体で取り組むことで、学習環境を醸成する	A	・朝の小テストの平均正答率7割以上が、農林キャンパスが80%、商業キャンパスが84%であった。 ・「小テストや朝の学習が基礎学力向上につながった」「思う」と回答した生徒が45%、「やや思う」と回答した生徒が38%で、合わせて83%の生徒が基礎学力の向上を実感している。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「地域貢献活動等を通して、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付けた」と答えた生徒80%以上 ○生徒指導講話(交通安全・防犯・薬物防止)を受講して、「ためになった」と答える生徒80%以上	・開校記念行事登山での清掃活動や地域貢献活動を通して、思いやりや社会性を育成する ・外部講師による講話(交通安全・防犯・薬物防止)を実施し、生徒がそれらの問題に対して関心を持ち、自ら対処できる知識を身に付けさせる	A	・「地域貢献活動等を通して、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付けた」「思う」と回答した生徒が43%、「やや思う」と回答した生徒が47%で、合わせて90%の生徒が豊かな心を身に付けたと感じている。 ・生徒指導講話を受講して、「ためになった」「思う」と回答した生徒が62%、「やや思う」と回答した生徒が32%、合わせて95%の生徒が交通安全・防犯・薬物防止の意識を高めている。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ重大事案件数0件	・いじめ等の対処について、両キャンパスの全職員が同じ意識で取り組むことができるようにマニュアルを作成し、配布する ・いじめに関するアンケートを年間に複数回実施する ・いじめを覚知した場合は、迅速に事実確認を行い、対策委員会を開催して組織的に対応を図る ・教育相談だよりの発行	B	・いじめの認知件数は、農林キャンパスが22件、商業キャンパスが5件であった。 ・認知のほとんどがアンケートによるもので、アンケートを複数回実施している効果とも言える。 ・重大事案件は1件発生している。 ・「学校はいじめの撲滅や生徒の悩みに対応したり、命の大切さを学ぶ教育をしていると思いますか」に「思う」と回答した生徒が46%、「やや思う」と回答した生徒が44%で、合わせて90%の生徒が学校の対応を良好に評価している。
	◎★ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	○県内就職率(3年生)60%以上 ○将来、県内で働きたいと考えている生徒(1,2年生)が70%以上	・朝読書の時間に「佐賀語」を読む期間を設ける ・インターンシップの事前指導で、地元企業調べを実施する	・朝読書の時間に「佐賀語」を読む期間を設ける ・インターンシップの事前指導で、地元企業調べを実施する	A
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」と回答した生徒が80%以上	・保健だよりの10回以上発行 ・食に関するアンケートによる意識調査を実施する	A	・「健康に良い食事をしている」に「思う」と回答した生徒が53%、「やや思う」と回答した生徒が34%、合わせて87%の生徒が栄養やバランスの良い食事を毎日3食摂ることを意識している。 ・保健だよりを毎月発行し、健康の大切さを呼びかけることができた。
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・定期的に通学路において自転車等の登校指導を行う ・交通安全講話の実施	B	・交通安全講話の実施やHR活動等での安全指導により、安全意識は高まっている。 ・交通事故の発生は車との接触事故が1件、自転車による小学生との接触事故が1件発生した。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する	・定時退勤日の設定及び呼びかけ ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定	A	・両キャンパスともに時間外在校等時間の月平均は35時間程度で推移した(上限の45時間超過者割合約30%弱)。昨年と比較して若干減少しているが、まだ県平均を上回っている。 ・毎週水曜日を定時退勤日に設定しており、多くの部活動も休養日としている。 ・部活動休養日については、課業日1日・週休日1日以上を原則として、ほとんどの部活動が適切に休養日を設定している。
	○校舎制学校における業務の効率化	○キャンパス間の密な連絡を定着させる	・校務分掌や学年単位で両キャンパスの情報交換を充実させる	A	・毎月の運営委員会、職員会議はオンラインで実施し、キャンパス間の職員の移動回数を減らすことができた。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果
○ICT活用	○職員のスキルアップと生徒の学習用PC利用率の向上	○電子黒板または学習用PCを活用した授業の実施率80%以上(教員) ○課題研究での学習用PCの活用率80%以上(生徒)	・効果的なICT機器の活用(教科指導において、効果的な場面で電子黒板等を活用) ・課題研究において、記録、発表スライドの作成等で学習用PCを活用する	A	・すべての教員が電子黒板または学習用PCを活用した授業を実施している。その中でも、22%の教員が学習用PCを週に1回以上使用している。 ・課題研究では、活動の記録や調べ学習などで、学習用PCの活用率は100%であった。
★唯一無二の誇り高き学校づくり	【農林キャンパス】 ★農業を通じた地域連携活動や交流活動の推進	★「農業を通じた地域連携活動や交流活動ができている」と答えた生徒80%以上	・SAGASマートラーニング(SSL)を通して「人と環境に優しい農業教育」に取り組む	A	・第2回学校魅力強化委員会を10月に実施し、実施計画どおり順調にすすめられていることを確認した。また、毎月の活動報告も佐賀県教育委員会ホームページに掲載している。 ・「農業を通じた地域連携活動や交流活動ができている」で83%の生徒が地域連携ができていると回答した。
	【商業キャンパス】 ★実践的な授業や実習を通して地域産業(事務、販売、流通分野、IT分野)が求めるスキルを身に付ける	★「地域産業(事務、販売、流通分野、IT分野)で役立つスキルを身に付けた」と答えた生徒80%以上 ★専門教科に関連した検定試験の合格率80%以上	・会社を模した実践型授業を年間複数回実施 ・地域産業界から外部講師を派遣してもらい講話や講演会を実施する	A	・課題研究「ビジネスプラン」コースで外部講師を活用することで、産業教育フェア「ビジネスプランコンテスト」で入賞を果たした。 ・「地域産業(事務、販売、流通分野、IT分野)で役立つスキルを身に付けた」で97%の生徒がスキルを身に付けたと回答した。
	【両キャンパス】 ★農業教育、商業教育の学び合いによる相乗効果を生み出す	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合78%以上、教職員の割合85%以上	・学校祭を通して、それぞれの校舎での学びの良さを伝える ・学校だよりを通して、互いのキャンパスの活躍を知る	A	・「自分の学校を中学生に勧めることができる」に「思う」と回答した生徒が45%、「やや思う」と回答した生徒が45%、合わせて90%の生徒が勧めたいと回答している。教職員は「思う」が49%、「やや思う」が45%、合わせて94%が勧めたいと回答した。
○学校情報の発信	○広報活動に努め、開かれた学校づくりに取り組む	○学校だよりを年間8回発行 ○学校HPの「キャンパス News」「キャンパス Event」を随時更新する。	・学校だよりを発行し、保護者や近隣中学校等に配布する ・学校行事やイベントについての案内にHPを積極的に活用する ・各マスコミに対して、積極的に取材を依頼する	B	・学校だよりの発行が不定期となってしまった。 ・学校HPは両キャンパスの担当により、行事ごとに掲載できている。 ・県のプレスリリースの活用や伊万里市広報への密な連絡により、各マスコミ等で多くの取材が行われている。特に、地元ケーブルテレビとのつながりが強く、様々な行事の取材をいただいた。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり